

平成29年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 大原 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思えます。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	11.0	74	5.1	57	11.6	77	4.9	44
全国	11.2	75	5.2	58	11.8	79	5.1	46

(2) 本校の学力調査結果の分析

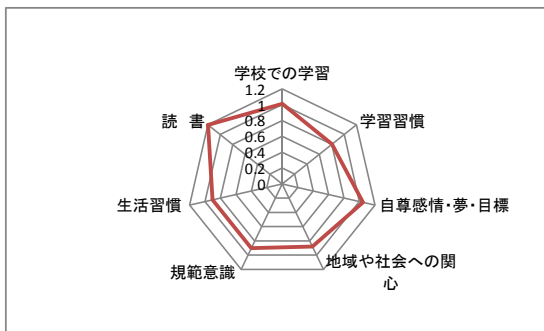
国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的にやや下回っているが、漢字の読み書きについては全国平均を上回っていた。 ・「書くこと」に関する問題に課題があり、書くことの指導に重点的に取り組む必要がある。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く問題は正答率が高い。	
	努力が必要な問題	手紙の構成を理解し、後付けを書く問題については正答率が低かった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に全国平均を下回っているが、「読む」問題については全国平均を上回っている。 ・目的や意図に応じ適切な言葉遣いで話すことなど、話す・聞く力や書く力について課題があり、日常的な指導の必要がある。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる問題は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	目的や意図に応じ、引用して書く問題については正答率が低かった。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に全国平均をやや下回っているが、数と計算、図形、数量関係領域については全国平均と同程度であった。 ・量と測定領域の問題に課題があり、算数的な活動を通して理解を深める指導を充実させる必要がある。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	加法と除法の混合した整数と小数の計算についての正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	平行四辺形と三角形について底辺と面積の関係を理解する問題についての正答率が低かった。	

算数B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に全国平均を下回っているが、無回答率は低く、記述式の問題に対する正答率は全国平均と同程度であった。 ・量と測定領域の問題に課題があり、算数的な活動を通して理解を深める指導を充実させる必要がある。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	示された考えを基に、異なった状況においても適用し、図に表現する問題について正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を選ぶ問題について正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での学習習慣については依然として課題といえるが、自身で学習計画を立てることや学習時間の確保については上昇傾向が見られる。 ・10分間読書の継続的な取組により、読書が好きな児童が急増した。 ・睡眠時間が不安定な児童や、テレビゲーム等の時間が1時間以上の児童が増加傾向にあり、大きな課題となっている。 ・将来の夢や目標をもつ児童や、人の役に立ちたいという児童が増加傾向にある。今後はこの実現に向け、実際の行動に結び付けていくことが重要である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> ○国語科の授業において、学力向上推進員と連携した「書くこと」の指導の充実を図ることで手順等を明確化し、各学年で書く活動を習慣化する。 ○算数科の授業において、数量や図形の意味などを実感をもってとらえることができるよう、算数的活動の充実を図る。また、給食準備時間の「きらきら教室」や「少人数学習」により、個に応じた指導の充実を図る。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ○児童が自主的・計画的に学習できるよう、学年に応じて家庭学習チャレンジハンドブックの活用を図る。 ○学校便りや学年通信及び学級懇談会等、機会があるごとにゲーム等の時間の増加について周知を図るとともに、PTAと連携した取組を行い、家庭における時間の使い方について保護者への啓発を充実させる。
